

麻生リハビリ総合病院だより



総生会 理念 常に最善を飽くことなく追求し 質の高い安心の医療を提供する

骨粗しょう症の早期発見・予防・診断および治療に取り組んでいます！

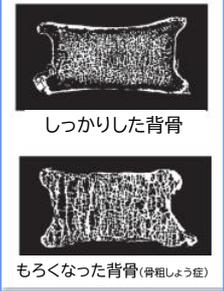
背中が **痛む** 腰が **曲がる** 背が **縮んできた**

骨折? 曲がる 縮む 痛む

・・・その症状 **骨粗しょう症** のサインかもしれません！?

骨粗しょう症とは、骨密度の低下によって骨がもろくなり、骨折しやすくなる状態のこと

骨粗しょう症は、骨折が起こるまで気が付かないことが多い『病気』です。国内の患者数はおよそ**1,300**万人以上とされていますが、きちんと治療を受けている患者さんは、そのうちの**20~30%**程度に過ぎません。骨粗しょう症になっても自覚症状は乏しいのが普通ですが、転倒などのちょっとしたことで骨折しやすくなります。骨折の中でも“大腿骨近位部骨折”は移動や生活機能を下げただけでなく、生命予後に関わるリスクも大きいことが明らかになってきています。定期的な骨密度の検査は、骨折などの症状が出る前に自分の骨の状態を知ることができるので、健康寿命を延ばすことに繋がります。



「まず、診察を受け、骨密度検査を行い、骨の健康を把握してみませんか?!」

当院の骨密度測定



- 骨折すると日常生活に影響を与える
腰椎、大腿骨の骨密度を直接測定
(同時測定することができるので、体の向きを変えることなく撮影することができます)
 - 測定は**10分程度**で痛みもありません
 - 通常の胸部レントゲン撮影と比べ**1/6程度の低被ばく**
(鋭角ファンビームによる絞られたX線を対象骨部分だけに照射し周囲への[散乱X線]も防ぎます)
- 測定終了後、直ちに自動解析を行い結果を表示。患者様にはレポートで検査結果を報告します。
 結果の評価は『若年成人の平均値からどのくらい下がっているか』^{*}で評価されます。
※骨密度若年成人：20~44歳の健康な方



気になることがございましたらお気軽に医師にご相談ください

外来診療のご案内

外来担当表

<診療科目> ・内科
 ・整形外科 (整形外科全般・リウマチ科・人工関節センター)
 ・リハビリテーション科 (装具外来)

<受付時間> 午前 **7:30 ~ 12:00**
 <診察時間> 午前 **9:00 ~ 12:00**



全科 **診療予約制** となっております。
 診療希望日の前営業日までに電話にてお申込みください。
予約受付時間：午後1時~午後5時(日曜・祝日を除く)
電話番号：044-981-6878(代表)
※予約をお取りでない方は、受付までお申し出ください。

	月	火	水	木	金	土
内科	午前 藤田 匡邦	藤田 匡邦	高木 宗兵	田中 康文	藤田 匡邦	田中 康文

	月	火	水	木	金	土	
整形外科	第1週	菅 直樹 玉置 聡				第1週 菅 直樹	
	第2週	菅 直樹 玉置 聡				第2週 西中 直也	
	第3週	玉置 聡	西中 直也	菅 直樹	休 診	長瀬 清弘	第3週 菅 直樹
	第4週	玉置 聡					第4週 菅 直樹
	第5週	菅 直樹 玉置 聡					第5週 菅 直樹

	月	火	水	木	金	土
リハビリ科	午前 休 診	休 診	休 診	榑倉 未知	休 診	休 診
リハビリ科	午後 休 診	休 診	休 診	榑倉 未知 (装具外来 ※)	休 診	休 診

※リハ科装具外来は5且より(木)午後→(火)午後へ変更予定です。
 ※リハ科装具外来は予約の方のみの診察となります。



2022年診療実績

大公開!

※当院ホームページにも診療実績を掲載しております。

回復期リハビリテーション病棟とは、脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの病気で急性期治療を終えた後、さらに医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者様に対して、多くの専門職がチームを組んで集中的なりハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です。退院後の生活を見据えて、起床から就寝までの間、食事や着替え、排泄、入浴など、日常的な動作も含めた入院生活そのものをリハビリテーションと捉え、医師、看護師、リハビリテーション専門職、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、その他多職種でサポートしております。

回復期リハビリテーション病棟入院料Iの実績要件	診療実績	図表番号
リハビリテーション実績指数	40以上 52.5	①
自宅等に退院する割合	7割以上 81.8%	②
重症者の割合	4割以上 46.5%	③
退院時の日常生活機能評価4点(FIM16点)以上改善	3割以上 71.5%	④

当院は川崎市No.1の回復期リハビリテーション病床(180床)を有しており、365日を通して様々なリハビリテーションを提供しています。

①実績指数

2021/4~2021/9	2021/7~2021/12	2021/10~2022/3	2022/1~2022/6	2022/4~2022/9	2022/7~2022/12
51.0	52.0	51.6	50.4	51.9	52.5

実績指数40以上の要件に対して、直近では**52.5**と大幅に上回る実績となっています。



在宅復帰率 (退院先内訳)

退院先	人数	割合
自宅	578人	70.1%
特別養護老人ホーム	26人	3.2%
有料老人ホーム	55人	6.7%
介護医療院	2人	0.2%
グループホーム	14人	1.7%
慢性期病院	29人	3.5%
介護老人保健施設	68人	8.2%
その他	53人	6.4%
合計	825人	100.0%
一般病棟への転院	56人	6.8%
在宅復帰 合計	675人	81.8%

その他：他科への転棟など

重症患者とは?

食事摂取や衣服の着脱、トイレ動作など患者様が日常生活で必要とする機能の状態を示す評価(日常生活機能評価)が10点以上の方のことです。総得点は0~19点で評価され、得点が高いほど自立度が低くなります。

退院した重症患者のうち、日常生活機能評価が4点以上改善した重症患者の割合または、FIMが16点以上改善した重症患者の割合

	2020年	2021年	2022年
重症患者数	410名	414名	397名
改善者数	288名	309名	284名
改善率	70.2%	74.6%	71.5%

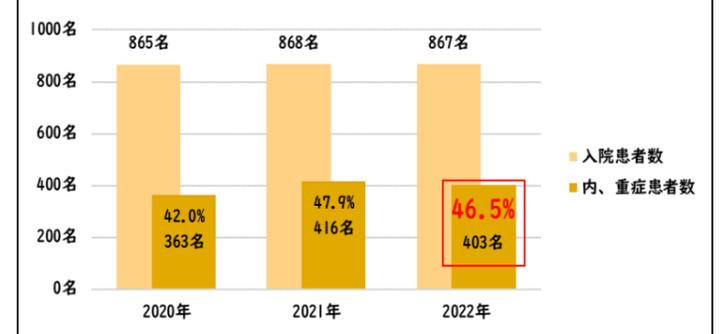
FIMとは

「Functional Independence Measure」略語で、日本語で「機能的自立度評価法」という意味になります。FIMの評価項目は、運動項目と認知項目の計18項目で、各項目を1点~7点の7段階で評価します。コミュニケーションや社会的認知などの認知項目を含むため、実際に日常生活で行っている動作を評価する、変化を確認するのに最適な評価方法です。

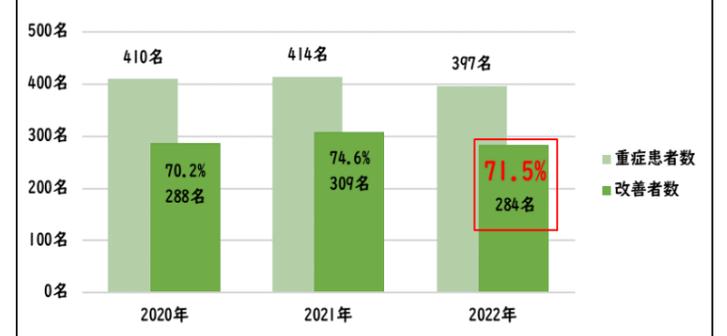
ADLとは

「Activities of Daily Living」の略語で、日本語では「日常生活動作」という意味になります。日常生活を送るために最低限必要な日常動作で、「起居・移乗・移動・食事・更衣・排泄・入浴・整容」といった動作のことです。

③入院患者数に占める重症患者割合



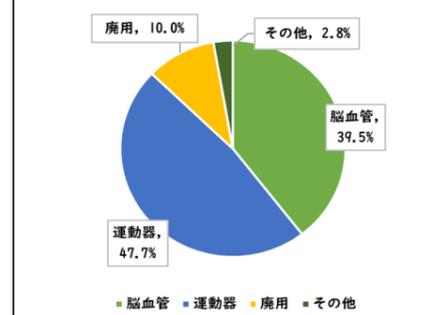
④退院時重症者数に占める改善率



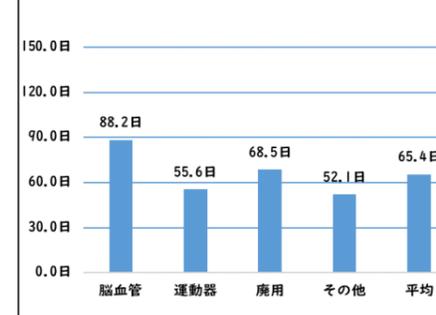
入院時に重症患者とされた方の**退院時改善率は71.5%**と非常に高い実績となっています。

一般的に発症から入棟までの期間が短いほど、高い改善が認められると言われています。当院では、病状の安定した患者様を早期に受け入れられるよう急性期病院との連携強化に努めております。

疾患別入院割合 (2022年)



平均在院日数 (2022年)



実績指数とは

ADLの評価法の1つであるFIM(機能的自立度評価法)を用いて、入棟期間中にFIM運動項目がどれだけ改善したかを指標化したものです。入院している期間が短いほど、また、ADLの改善度が大きいほど**実績指数は高くなり、数値が高い病院ほど、短期間で効果の高いリハビリテーションを提供する病院と言えます。**2016年の診療報酬改定で導入され、当院が届出をしている施設基準「回復期リハビリテーション病棟入院料I」では2020年の診療報酬改定で、**実績指数が40以上**であることが要件とされています。また、実績指数は下記の計算方法で表すことができます。

$$\text{実績指数} = \frac{\text{退院時のFIM運動項目の得点} - \text{入院時のFIM運動項目の得点}}{\text{各患者の入棟から退棟までの日数} \div \text{患者の入棟時の状態に応じた算定上限日数}}$$

施設基準と当院の特徴について

回復期リハビリテーション病棟入院料は、令和4年度診療報酬改定により、1~5までの5段階となりました。当院は最も重症な方への対応が可能な**入院料I**を算定しています。

主な変更点として、新規入院患者の重症者割合が3割以上から**4割以上**になり、「**第三者評価を受けていることが望ましい**」との基準が追加されています。

2001年開院の当院は、回復期リハビリテーション病院としては歴史が長く、**180床(45床×4病棟)すべてが回復期リハビリテーション病棟**となっています。

全病棟に専従の医師や医療ソーシャルワーカーを配置しており、手厚い人員配置を行っています。

回復期リハビリテーション病棟入院料 (施設基準)

項目	入院料1	入院料2	入院料3	入院料4	入院料5
医師	専任医師1名以上				
看護師	13名以上(7割以上が看護職)	15名以上(4割以上が看護職)			
看護補助者	30名以上				
リハビリ専門職	専任者のPT3名以上、OT2名以上、ST1名以上	専任者のPT2名以上、OT1名以上			
社会福祉士	専任者1名以上				
管理栄養士	専任者1名以上				
第三者評価	実施している	-	実施している	-	-
リハビリテーション実施設備等の設置状況(国土交通省)	-				
データ提出義務の届出	-				
休日リハビリテーション	-				
新規入院患者の5割の重症の療養の割合	3割以上(4割以上)	2割以上(3割以上)			
入院期間中の日常生活機能評価(※)の改善率	3割以上(4点、16点以上改善)	3割以上(3点、12点以上改善)			
自宅等に退院する割合	40以上	7割以上			
リハビリテーション実績指数	2.19点(2.115点)	2.06点(2.051点)	1.89点(1.884点)	1.841点(1.827点)	1.678点(1.664点)

※1:入院料5については、届出から2年間に限り届け出る事ができる。
なお、令和4年3月31日時点において、回復期リハビリテーション病棟入院料5又は6の届出を行っている病棟については、1年間、改定前の医療診療報酬点数表により回復期リハビリテーション病棟入院料5または6を算定し、その後1年間、新入院料5を算定することができます。

News

「病院機能評価」の認定更新について

当院は平成19年に初回認定されてから、今回で**3度目の認定更新**となりました。また、地域において、より高水準の回復期リハビリテーション病院のみが認められる「**高度・専門機能**」の認定も受けています。

病院機能評価とは、日本医療機能評価機構による病院の質改善を支援する評価ツールです。組織全体の運営管理および提供される医療について、中立的、科学的、専門的な見地から第三者の立場で評価していただき、一定の水準を満たした病院が「認定」を受けられます。

当院では、引き続き、地域に根ざした安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療を提供すべく、日常的に質改善活動に取り組んでまいります。



食べる楽しみのために！～リハビリテーション機器のご紹介～

当院では楽しく・効率的に訓練をしていただくために、さまざまなリハビリテーション機器を導入しています。今回は、嚥下訓練(食べること・飲み込むことの訓練)の機器“バイタルスティム”“ジェントルスティム”についてご紹介いたします。どちらも機器を装着したまま、言語聴覚士による嚥下訓練を行うことで、さらなるリハビリテーションの効果が期待できます。

バイタルスティム訓練風景



バイタルスティム

低周波の電流を流し、飲み込むための筋肉トレーニングができる機器です。飲み込む力が弱くなると、食べ物や飲み物を誤嚥(食道ではなく気道に入ってしまうこと)する可能性があります。顎下にバイタルスティムを装着し、喉の筋肉を鍛えることにより、誤嚥の予防が期待できます。

ジェントルスティム

「ごくん」と飲み込む喉の反射運動を働きやすくするための機器です。

ジェントルスティム

喉に2枚のパッドを貼り、人体の深部にまで到達する中周波といわれる電流を流し、感覚神経に刺激を与えます。喉の感覚を働きやすくすることで、飲み込む際の反射神経を起しやすくなります。



バイタルスティムを使った患者様からの声

- ❖バイタルスティムを使い始めたころは電気を流すピリピリした感じがしましたが、すぐに慣れ、違和感を感じなくなりました。
- ❖入院当初はミキサー食しか食べられなかったのが、1か月半の訓練で、今では固形のものが食べられるようになり、食べる楽しみができました。まだまだ頑張っ、さらに通常のものが食べられるように頑張ります。

明るくきれいなST室



ミキサー食

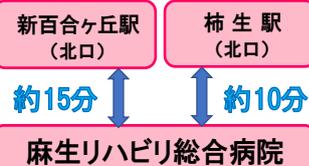


全粥+軟菜一口大

交通のご案内

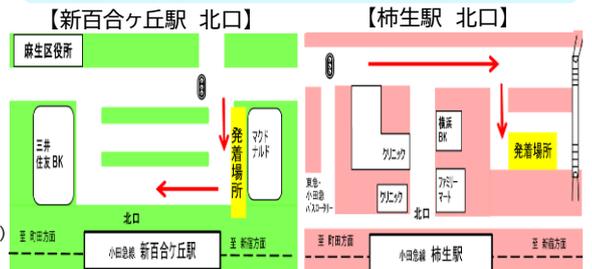


無料のシャトルバスをご利用ください！



【運行日】月曜日～土曜日(日・祝日を除く)
20分間隔で運行いたします。

乗降場所



◆シャトルバスは道路事情により運行が遅れる場合があります。車いすの患者様もご利用いただけます(新百合ヶ丘駅発着のみ) 運行時刻など、詳細はお気軽にお問合せください。

医療法人社団 総生会 麻生リハビリ総合病院

発行:医療法人社団 総生会 麻生リハビリ総合病院
〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生6-23-50
TEL (044)981-6878 / FAX (044)981-6871



第11号 院外広報誌
発行日:2023年4月1日
発行者:広報委員会

